

斜里町学力向上推進計画

平成 25 年 10 月
斜里町教育委員会

斜里町学力向上推進計画 目次

1	はじめに	・・・	1
2	斜里町の現状	・・・	2
	(1) 25年度の全国学力・学習状況調査の結果と課題		
	(2) 学校における学力向上対策と課題		
	(3) 教育行政における学力向上対策と課題		
3	学校における学力向上対策の方針	・・・	7
	(1) 全国学力・学習状況調査結果の活用		
	(2) 教育課程の適正な管理		
	(3) 学力下位層の解消		
	(4) 自己肯定感の伸長		
	(5) 家庭における規則正しい生活習慣の確立と家庭学習・家庭読書の定着		
	(6) 家庭や地域との連携		
4	行政における学力向上対策の方針	・・・	9
	(1) 学校体制への支援		
	(2) 学校事業への支援		
	(3) 家庭や地域向けの事業		
	(4) 北海道教育委員会との連携		
	(5) 計画性を持った推進		
	(6) 学力向上に向けた組織的推進		
5	斜里町における学力目標	・・・	10
	(1) 学校における目標		
	(2) 家庭における目標		
	(3) 地域における目標		
	(4) 行政における目標		
6	学校における具体的な取組	・・・	11
	(1) 「分かる・できる・楽しい」授業づくり		
	(2) 個に応じた指導（学力下位層への取組）		
	(3) 「チャレンジテスト」と「ウェブシステム」の活用		
	(4) 家庭学習のしおりの作成と配布		
	(5) 宿題や家庭学習の全校的な取組		
	(6) 学習サポート		
	(7) 校内研修の授業交流		
7	計画期間を決めて行う主な項目	・・・	13
	(1) 年度内に取り組むこと		
	(2) 平成26年度に取り組むこと		
8	当面の推進体制	・・・	14
	(1) 斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会		
	(2) 斜里町学力向上推進委員会		
	(3) 斜里町学力向上宣言		
	(4) 家庭・地域との連携		
	(5) 事業実施に向けた対応		
	(6) 計画の進捗確認と評価		
9	資料：斜里町学力向上推進計画に関する協議経過	・・・	15

斜里町学力向上推進計画

1. はじめに

日本の教育は機会均等を実現しながら高い教育水準を確保するなど、国際的にも高い評価を得てきましたが、一方で、都市化、少子化の進展や経済的な豊かさの実現など、社会が成熟化する過程で、学校を始めとする家庭や地域の教育力の低下、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、いじめや不登校といった問題行動の増加など多くの課題が指摘されています。

このような状況をふまえて、国では義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって教育施策の成果と課題を検証し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるために平成19年度から全国学力・学習状況調査を実施しています。

これまでの調査結果からは、全道の児童生徒の学力は全国と比較して低い水準にあります。その中であって、斜里町は全道の平均よりさらに低い傾向が続き、特に、平成25年度においては小・中学校ともに全国・全道の平均から大きく下回る結果になりました。また、「学力下位層」に含まれる児童生徒の割合が高く、同時に行われている学習状況調査においては、テレビやゲーム等に費やす時間が多く、家庭学習に費やす時間が少なく、読書習慣も身につけていないという結果が明らかになっています。その背景として、学校教育に関する保護者の関心が低く児童生徒の指導を学校任せにしている可能性も指摘されています。

私たちは「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」のバランスのとれた力を育むため、これらの「事実」をしっかりと受け止め、あらゆる取組をとおして、子どもたち一人ひとりに「社会で自立して生きていくために必要な確かな学力」を身につけさせなければなりません。

斜里町教育委員会は「学力下位層」への取組を基本に据え、これまでの施策に加えて、基礎・基本の定着のための指導を組織的に着実に積み重ねることによって学力が身につくと考えています。授業力の向上などによる学校における基礎学力の定着と家庭における学習習慣の定着を「車の両輪」と位置づけ、学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割と責任を自覚して行動するために斜里町学力向上推進計画を策定します。

2. 斜里町の現状

(1) 25年度の全国学力・学習状況調査の結果と課題

学力調査結果と分析

ア 小学校

- ・斜里町は2教科4科目全てにおいて全国・全道平均をかなり下回る。特に、知識や技能の応用力や活用力を調査する国語B、算数B共に、全国・全道平均を大きく下回る。
- ・学力下位層の割合を科目ごとに比較して、斜里町の割合は全国平均を10%弱から20%強と大きく上回る。

全道平均が前年度と比較して全国に近づくものの、斜里町は全国・全道平均との差が大きくなる。

学力下位層とは全国学力調査で科目ごとに、全国平均で下位25%相当を基準と示されたライン内に含まれる児童生徒をいう。

斜里町下位層は前年度と比較して、その割合が大きく上回る。

イ 中学校

- ・斜里町は2教科4科目全てにおいて全国・全道平均をかなり下回る。特に、知識や技能の応用力や活用力を調査する国語B、数学B共に、全国・全道平均を大きく下回る。
- ・学力下位層の割合を科目ごとに比較して、斜里町の割合は全国平均を15%強から30%弱と大きく上回る。

全道平均が前年度と比較して全国との差はほとんど変わらないものの、斜里町は全国・全道平均との差が大きくなる。

斜里町下位層は前年度と比較して、その割合が大きく上回る。

全道平均が全国と比較して「近づく」または「ほとんど変わらない」中で、斜里町が大きく下回ったことは、教育委員会や各学校の取組等の成果が結果に結びついておらず、実効性のある改善策が求められる。下位層の割合が増加したことも同様である。

学習状況調査結果と分析

<小学校>

課題	質問事項	選択肢の内容	斜里町	北海道	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	している・どちらかといえば	96.5	96.3	96.3
(6)	自分にはよいところがあると思いますか	当てはまる・どちらかといえば	54.1	64.5	66.4
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	当てはまる・どちらかといえば	75.6	86.0	87.7
(11)	普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームを除く)	2時間以上	65.2	64.5	62.5

(12)	普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)をしますか。	2時間以上	47.7	35.6	28.2
(12)	普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか。(H25調査なし)	2時間以上	18.3	13.2	9.6
(15)	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)	1時間以上	47.7	50.5	63.2
(16)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)	1時間以上	46.5	51.3	57.5
(20)	家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	30分以上 (全くしない)	32.5 (37.2)	34.9 (25.6)	36.6 (20.8)
(35)	学校に行くのは楽しいと思いますか。(H25調査なし)	そう思う・どちらかといえば、そう思う	80.6	77.0	80.5
(55)	国語の授業の内容はよく分かりますか。	当てはまる・どちらかといえば、当てはまる	67.4	78.8	79.9
(67)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。	最後まで解答を書こうと努力した	61.6	66.8	67.4
(75)	算数の授業の内容はよく分かりますか。	当てはまる・どちらかといえば、当てはまる	80.3	76.5	80.2
(83)	今回の算数の問題について、言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。	最後まで解答を書こうと努力した	61.6	70.3	74.4

【(1)】 朝食を食べる習慣はほぼ定着している。

【(6)】 自己肯定感を持ってない割合が、全国・全道を上回る。

【(7)】 将来の夢や目標を持っている割合が、全国・全道を下回る。

【(11)(12)】 重複の度合いは不明であるが、多くの児童がテレビやゲーム等に費やす時間が全国・全道より多い状況である。

【(15)(16)】 平日や土日休日の家庭学習が1時間以上の割合が、全国・全道を下回る。

【(20)】 全く読書をしない割合が全国・全道を大きく上回る。

【(55)】 国語の授業の理解度は全国・全道を大きく下回る。

【(67)】 記述式や短答式の問題を「最後まで解答を書こうと努力した」が全国・全道を下回るが、「途中で諦めたものがあった」「書く問題は全く解答しなかった」を合わせると40%弱となり、かなり苦手としている。

【(75)】 算数の授業の理解度は全道を上回り、全国とほぼ同様である。

【(83)】 記述式や短答式の問題を「最後まで解答を書こうと努力した」が全国・全道を大きく下回る。「途中で諦めたものがあった」「書く問題は全く解答しなかった」を合わせると35%強となり、かなり苦手としている。

< 中学校 >

問番	質問事項	選択肢の内容	斜里町	北海道	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	している、どちらかといえば	93.9	92.8	93.8
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	当てはまる、どちらかといえば	60.4	70.7	75.7
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	当てはまる、どちらかといえば	71.4	72.2	73.5
(10)	普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームを除く)	2時間以上	66.3	58.4	55.5
(11)	普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)をしますか。	2時間以上	37.8	32.5	27.5
(12)	普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか。(H25調査なし)	2時間以上	45.2	30.7	24.2
(15)	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)	1時間以上	53.0	62.1	68.6
(16)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)	1時間以上	45.9	64.0	67.3
(20)	家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	30分以上 (全くしない)	28.5 (45.9)	32.9 (33.6)	29.5 (36.0)
(55)	国語の授業の内容はよく分かりますか。	当てはまる・どちらかといえば、当てはまる	70.4	72.0	71.9
(67)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。	最後まで解答を書こうと努力した	59.2	69.2	73.0
(75)	数学の授業の内容はよく分かりますか。	当てはまる・どちらかといえば、当てはまる	53.1	69.3	70.5
(83)	今回の数学の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。	最後まで解答を書こうと努力した (書く問題は全く解答しなかった)	29.6 (16.3)	40.1 (11.5)	44.9 (9.8)

【(1)】 朝食を食べる習慣はほぼ定着している。

【(6)】 自己肯定感を持たない割合が、全国・全道を上回る。

【(7)】 将来の夢や目標を持っている割合が、全国・全道をやや下回る。

【(10)(11)】 重複の度合いは不明であるが、多くの生徒がテレビやゲーム等に費やす時間が全国・全道より多い状況である。

【(15)(16)】 平日や土日休日の家庭学習で1時間以上の割合が全国・全道を下回る。

【(20)】 読書時間で全く読書をしない割合が全国・全道を大きく上回る。

【(55)】 国語の授業の理解度は全国・全道とほぼ同様である。

【(75)】 数学の授業の理解度は、全国・全道を大きく下回る。

【(67)】 記述式や短答式の問題を「最後まで解答を書こうと努力した」が全国・全道を大きく下回り、「途中で諦めたものがあった」「書く問題は全く解答しなかった」を合わせると40%弱となり、かなり苦手としている。

【(83)】 記述式や短答式の問題を「最後まで解答を書こうと努力した」が全道・全国を大きく下回り、「途中で諦めたものがあった」「書く問題は全く解答しなかった」を合わせると70%弱となり、かなり苦手としている。

調査対象の母集団は異なるものの、小学校6年生と中学校3年生の傾向が比較的類似しており、家庭におけるテレビやゲーム等に費やす時間が多いこと、家庭学習の時間が短いこと、家庭読書の時間が短いまたはほとんど読まないことなど、学力向上を阻害する状況が家庭生活にもあり、保護者の理解を得ながら連携して取り組まなければならない。また、授業についても分からない児童生徒の割合が高いことや全国学力調査の問題に慣れていないことなどが継続している。

全国・全道と比較して、学校質問紙から、全国・全道と比較して全国学力・学習状況調査の結果を教育活動の改善等に積極的に生かしているという割合が下回っている。

(2) 学校における学力向上対策と課題

授業における取組

- ・学力向上に向けた日常の授業実践は、教職員個々の資質能力や努力による部分が大きい。

学習指導や生徒指導、保護者対応、分掌業務等に追われ、勤務時間内に教材研究を取り組むことができない状況があり、中学校では放課後に部活動の指導がある。

- ・学力下位の児童生徒の割合が高く、個別的な指導が不十分である。

学力下位の児童生徒の多くは、これまでの指導の積み重ねが不十分と思われる。

- ・全国学力・学習状況調査の分析結果が授業改善に生かし切れていない。

従来の知識や技能の習得させる授業は充実しつつあるが、それらを活用した思考力・判断力・表現力等を高める授業の改善が今後の課題である。また、全国学力・学習状況調査の改善プログラムが一部の取組になるなど、学校全体のものとなっていない。

放課後・長期休業における取組

- ・補充学習サポートは、長期休業中はすべての学校で、放課後は多くの学校で実施されているが、取組やその内容には大きな差がある。
- ・管理職や町教委の学力支援講師等が中心となって取り組まざるを得ない学校もある。

補充学習サポートは、すべての教職員がその指導に当たるべきものである。特に、長期休業中は学校全体で取り組むべきものである。しかし、放課後の指導については、学力支援講師やボランティア等の配置が望まれる。

校内における推進体制

- ・全国学力・学習状況の調査結果を分析し、その分析結果を活用しての学力向上が、全体の取組となっていない学校が多い。

学力向上の位置付けが不十分であり、取り組む校内体制が明確になっていない。

- ・公開研究会を開催し、開かれた授業研究を推進しようとする学校が固定化している。

公開研究会に関する学校の歴史と伝統に差があり、また、教職員の繁忙感等との兼ね合いもあるため、そのことが教職員の意識の差につながっている。

- ・規則正しい生活習慣の確立について、家庭への働きかけがまだ不十分である。

規則正しい生活習慣の確立が重要であることを学校は理解しているが、家庭の領域の改善に戸惑っている面がある。

- ・朝読書の実施や家庭学習の手引を家庭へ配布するなどに取り組む学校が増えつつある。

家庭学習や家庭読書の重要性がより高まっているが、学校やボランティアによる朝読書や「読み聞かせ」の取組が家庭での読書習慣に結びついていない面がある。

(3) 教育行政における学力向上対策と課題

学校体制への支援として 35 人学級や学力支援講師の配置などを行っているが全体的な底上げに至っていない。

- ・町教委による、35 人学級の実施(2 名分、斜里小)、学力支援講師の配置(3 名、斜里小・朝日小・斜里中)、特別支援員の配置(9 名、斜里小・朝日小・峰浜小・ウトロ小中・斜里中)。
- ・道教委による、英語巡回指導教員(拠点校斜里中 1 名/斜里小、朝日小、川上小)、生徒支援加配(斜里中 1 名)、退職者等人材活用(斜里中 1 名、朝日小 1 名)、指導方法工夫改善・少人数指導(2 名、斜里小・朝日小)、スクールカウンセラー(拠点校斜里中 1 名)配置。

人的な支援が有効であり、より実効性のある取組を工夫しなければならない。あわせて、その成果を検証しなければならない。

学校事業への支援を行っているが活用する学校が少ない。

公開研究会等への事業支援(朝日小・川上小・町へき地複式連盟・町教振)

学生ボランティア活用事業への支援(斜里中の長期休業中の補充学習サポート)

町へき地複式連盟・町教振との関連もあるが、公開研究会の開催が十分ではない。

家庭や地域向け事業を企画検討しているが学校との連携協議が十分ではない。

学力向上に関する情報提供と啓発

規則正しい生活習慣の確立と家庭学習の定着化(生活リズムチェックシート等の活用)

「親子・国語(算数)教室」と学習相談事業の活用

学力向上をはじめとする課題を、学校と家庭・地域が課題意識・危機意識を共有して取り組む必要がある。

3 . 学校における学力向上対策の方針 ~ 学力下位層の底上げを目指して ~

(1) 全国学力・学習状況調査結果の活用

全国・全道・斜里町の結果と各学校の結果を比較・分析し、実効性のある学力向上・学校改善策を学校全体や特別委員会で作成し、検証しながら実践する。
斜里町学力向上推進計画等と関連させて、各学校の取組を充実する。

(2) 教育課程の適正な管理

学習指導要領の趣旨を踏まえ、学年ごとに示された標準授業時数、目標や内容、そして確実な定着を関連させるとともに、P D C Aを機能させ教育課程を適正に管理する。

校長や教頭が毎日、授業参観を行い、教員の指導にあたる。

授業研究を核として校内研修の活性化を図り、「分かる、できる、楽しい」授業づくりの実践に取り組む。特に、下位層に配慮したT Tや習熟度別指導の授業及び授業形態等を工夫する。

学校行事や準備の時間を精選して教科指導の補充指導や学び直しの時数にあけるとともに、全教員による放課後や長期休業中の学び直しや補充学習サポートの機会と内容の充実を図る。

学校行事の精選には保護者や地域の理解を得ることも求められる。

(3) 学力下位層の解消

学力下位層とは、全国学力調査で科目ごとに、全国平均で下位 25%相当を基準と示されたライン内に含まれる児童生徒をいう。

学校ごとに下位層に含まれる児童生徒の結果を分析し、卒業までを見通して定着していない部分を個別に補充指導するなど、学校としての実効性のある取組が求められる。その上で上級学校へ進学させなければならない。

結果の分析に基づき、小学校では5年生以下、中学校では2年生以下の学力下位層を解消するためにきめ細かな指導を工夫する。このきめ細かな指導は中位層や上位層の児童生徒の指導にも役立つものとする。

ここでの学力下位層は各学校で判断する基準のライン内に含まれる児童生徒をいう。

全国学力調査の記述式や短答式の問題に対する苦手意識を克服するためにも、過去問題やチャレンジテスト等を数多く練習させる。

町の就学指導委員会との協議・連携を図る。

(4) 自己肯定感の伸長

学校全体で自己肯定感を育てるために、夢や目標を持つこと、成功体験を数多く積み重ねることなどの教育活動の場や機会を設ける。

学習に関する関心や意欲を高めるキャリア教育や教育相談活動の充実を図る。

下位層は他者の成功体験に基づく講話を聞くことで、自己肯定感をイメージするところから始まる。そのため、外部講師の講話を聞く機会を設ける。

下位層は他者との比較でなく、自己評価(個人内評価)を基本とし、スモールステップの指導を積み重ねる。

児童生徒のよさや自己肯定感等を伸長させるため、「ほめる」指導を基本とする。

(5) 家庭における規則正しい生活習慣の確立と家庭学習・家庭読書の定着

生活リズムチェックシートを活用し、家庭生活の実態を把握する。その実態に基づいて、家庭における規則正しい生活習慣の確立と家庭学習・読書の習慣を定着させる。

生活リズムチェックシートを介して、本人や保護者にメッセージを伝える。

学年ごとを基本として、家庭学習の手引を作成し配布する。その活用を啓発する。

保護者の関わり方も記載し、家族ぐるみで家庭学習を取り組む体制を支援する。

(6) 家庭や地域との連携

学力向上をはじめ、児童生徒が抱える課題解決のために、学校を中心に家庭、地域、斜里町教育委員会が課題意識を共有して取り組むことの重要性を家庭や地域に働きかける。

携帯電話等の使用については家庭でルールを決めて使用させるなど、保護者の責任を明確にさせるとともに、「地域全体で地域の子どもたちを育てる」という体制づくりを地域に働きかける。

4 . 行政における学力向上対策の方針

(1) 学校体制への支援

- ・斜里町として学校への支援を行っているが、全体的な底上げに至っていないため、斜里町教育委員会による 35 人学級等の取組や北海道教育委員会による英語巡回指導教員の配置などの支援を継続・強化する。

(2) 学校事業への支援

- ・斜里町として学校事業への支援を行っているが、学校の受け入れ体制が十分でないため、学校と連携して受け入れ体制を整備し、北海道教育委員会の学校支援事業を活用するとともに、公開研究会等への事業支援を継続・強化する。

(3) 家庭や地域向けの事業

- ・学校と連携して役割分担を整理して、家庭や地域向けの啓発事業などを企画し、実施するとともに、教育相談事業を開催する。

(4) 北海道教育委員会との連携

- ・北海道教育委員会による学校における指導体制拡充のための加配事業や学習活動への支援事業と連携した取組を推進する。

(5) 計画性を持った推進

- ・斜里町総合計画等に基づく各種教育活動や斜里町学力向上推進計画による、学校・家庭・地域・行政の役割を踏まえた取組を計画的に推進する。

(6) 学力向上に向けた組織的推進

- ・斜里町学力向上推進委員会を設置し、学力向上に向けた組織的推進を図る。
- ・学校、PTA、行政などが学力向上に向けた計画的な取組を十分に機能させるための調整や関係団体間の連携など効果的な取組のための環境整備を図る。

5 . 斜里町における学力目標

(1) 学校における目標

学校生活が楽しいものにする。

学校での勉強（授業内容）が「分かる、できる、楽しい」ものにする。

教員は自ら授業研究を公開し、授業力の向上に努める。（年間、一人1回以上）

(2) 家庭における目標

毎朝、朝ご飯を必ず食べる。

家庭学習の時間を決めて、毎日継続して行う。

1日の時間は「学年×10分以上」とする。）

テレビやゲーム等に費やす時間を決めて、その時間以内とする。

（インターネットや携帯の時間も含まます）

小学生 平日：2時間以内 平日以外：3時間以内

中学生 平日：3時間以内 平日以外：4時間以内

家庭読書の曜日と時間を決めて、継続して行う。

（教科書や参考書、マンガ、雑誌を除く。）

週4日以上、1日の読書時間

小学校低学年 15分以上、中学年 20分以上、高学年・中学生 30分以上。

生活リズムチェックシートの活用等による規則正しい生活の定着を図る。

(3) 地域における目標

子どもたちとの元気で明るいあいさつの輪を広げる。

子どもたちのよい行いや頑張っている様子を学校へ情報として伝える。

地域の教育力の活用について積極的に協力する。

(4) 行政における目標

斜里町の学力目標を設定し、町民への周知を行い課題意識の共有を図る。

学校と課題意識の共有を図り、学校経営の充実を支援する。

35人学級実施、学力支援講師配置、公開研究会開催支援など学校支援の継続・充実を図る。

「親子・国語教室」等の開催と教育相談事業を実施する。

総括目標

- ・学力下位層への学力向上の取組を重点とする。
- ・平成26年度全国学力・学習状況調査で全道平均を上回る。

6 . 学校における具体的な取組

「分かる・できる・楽しい」授業づくり

授業の最初に課題を明確にするとともに、自ら考える時間を保障し、全体でまとめたことを最後に振り返り、学習内容を確実に定着させる活動を設ける。

分かる・できる・楽しい授業と家庭学習との関連を図りながら、さらに学びたいという意欲を育む。

条件に応じて書くことや学習した漢字を確実に書くことができるよう取り組む。

四則計算や方程式、割合、関数の式(問題)を確実に解くことができるよう取り組む。

(2) 個に応じた指導(学力下位層への取組)

個別の指導計画を作成するとともに、「ほめる」指導を基本とし、教員側から1時間に一人1回以上声をかけるなど、個に応じた指導を工夫する。

授業中や補充学習サポートにおいて個別指導に努め、基礎・基本の確実な定着を図る。

(3) 「チャレンジテスト」と「ウェブシステム」の活用

「チャレンジテスト」(全国学力調査の練習問題)を授業で活用するとともに、指導者が採点・集計を行い、「ウェブシステム」(全道の平均正答率と比較できるシステム)による分析と評価を学び直しの機会や授業に生かしながら、基礎・基本の確実な定着を図る。

「チャレンジテスト」を授業や家庭学習に取り入れ、定着状況の確認や指導と評価に活用する。

(4) 家庭学習のしおりの作成と配布

学年ごとに家庭学習のしおり(手引)を作成し、保護者の関わり方も記載するなど、家族ぐるみで家庭学習が取り組めるよう工夫する。

家庭学習で取り組んだ内容や宿題のノート等を提出させ、確認と励ましを行い、家庭学習の習慣を定着させる。

(5) 宿題や家庭学習の全校的な取組

上の学年に進むにつれて、家庭学習の内容を宿題から自主的な学習の割合を増やすなど、学校全体の方針の下で取り組み、家庭と連携しながら家庭学習の習慣の定着や意欲の向上に努める。

中学校においては、教科間の宿題の量を調整し、生徒の過重負担にならないようバランスに配慮して取り組む。

(6) 学習サポート

基礎・基本の確実な定着を図るため、指導計画に補充的学習の時間を位置づけるとともに、朝や放課後、長期休業期間等を活用した補充学習サポートを学校全体で推進する。

(7) 校内研修の授業交流

一人1回以上の授業研究の公開を基本とするとともに、お互いに学び合い・高め合う校内研修を推進し、教員一人一人の授業力の向上を図る。

7. 計画期間を決めて行う主な項目

(1) 年度内に取り組むこと

8月末までに

- ・学校における具体的な取組の進行計画(校長ビジョン)をまとめる。

9月末までに

- ・学力向上を実現するための校内体制を整備する。

10月末までに

- ・平成26年度の各学校における学力向上目標を検討する。
- ・平成26年度全国学力・学習状況調査に向けた取組を推進する。

既習事項の確認テストを数回実施し、結果を踏まえて個に応じた指導を行う。

- ・生活リズムチェックシートの活用等による規則正しい生活習慣の定着を図る。

11月末までに

- ・学力向上について地域啓発を実施する。(11月1日の「北海道教育の日」予定)

12月末までに

- ・斜里町学力向上推進委員会を正式に設置する。

冬季休業期間

- ・補充学習サポートを学校体制で実施する。

後期期間をとおして

- ・授業研究を推進する。
- ・家庭学習・読書の習慣化を図る。
- ・オール北海道で目指す「第4期」の目標を実現するため、チャレンジテストの結果や解答類型、無回答率の分析から指導方法を工夫改善する。

(2) 平成26年度に取り組むこと

公開研究会の開催拡大を図る。

学力向上に取り組む態勢(校内委員会など)を強化する。

ローリング方式による計画管理を行う。

8 . 当面の推進体制

- (1) 斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会
 - ・学力向上に関する校長会(教頭会)と教育委員会事務局の情報共有・検討機関として設置する。
 - ・斜里町学力向上推進委員会が設置されるまでは幹事会的な役割を担う。
 - ・教育部長を委員長、校長会長を副委員長とし、校長会副会長及び研修部長、町教委指導主事、生涯学習課長で構成する委員会で7月5日に設置済み。

- (2) 斜里町学力向上推進委員会
 - ・児童・生徒の学力向上を目指すために必要な情報の交流及び資料の作成、教科等指導力向上のための企画・推進、その他調査研究を行う機関として設置する。
 - ・校長会及び教頭会、一般教員(研修・教務)、教育委員会事務局で構成する。
 - ・10月中に準備委員会を設置し、12月末までに正式スタートする。

- (3) 斜里町学力向上宣言
 - ・10月上旬に斜里町校長会及び教頭会が教育委員会に対し宣言する。
 - ・宣言の主旨などについて全教職員に説明し共通理解を図る。

- (4) 家庭・地域との連携
 - 町広報、おじろ通信などを活用して学校紹介と合わせた地域向け啓発を行う。
 - 11月1日の「北海道教育の日」に町民向け啓発チラシを発行する。
 - 斜里町学力向上推進委員会からの継続的な情報発信を行う。
 - 斜里町PTA連合会及び各単位PTAとの連携の下で、家庭における生活習慣や学習習慣、読書習慣の改善に向けた取組を推進する。

- (5) 事業実施に向けた対応
 - 斜里町学力向上推進委員会に参画する教職員(研修・教務)に係る予算措置及び学校公開研究会等の取組を支援する観点から財源対応を行う。

- (6) 計画の進捗確認と評価
 - 斜里町学力向上推進委員会の活動状況を教育委員会に定期的に報告することにより点検・評価する。
 - 学校経営の進捗状況確認との関連において取組状況を評価する。
 - ・学力目標は斜里町全体を平均化した目標であり、学校個々には様々な状況差があるため、学力目標を踏まえながら各学校の実情を勘案した計画(校長ビジョン)の下で学校経営を進める。

教育行政に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価により実施する。

- ・自己評価と第三者機関の評価により適正な進捗確認を行う。

本計画は推進過程での「見直し」を含むローリング方式とする。

本計画は年度途中の策定であることをふまえた内容とするが、計画期間は3ヶ年を基本とする。

9. 資料：斜里町学力向上推進計画に関する協議経過

・5月14日	定例校長会議において「学力目標」を設定することを説明
・5月29日	定例教育委員会議において夏までに斜里町教育委員会としての目標（指標）を明確にすることを確認
・6月11日	定例校長会議で「斜里町の学力向上の取組」について具体的に提示
・6月17日	校長会代表、研修部長と町教委指導主事による方向性協議
・7月5日	第1回斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会を開催
・7月24日	定例教育委員会議において計画と方向性のアウトラインを確認
・7月25日	第2回斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会において「学力目標と到達指標」及び「具体的な取組」を協議
・8月上旬	校長会と教頭会による内容確認
・8月12日	臨時校長会による協議
・8月14日	第3回斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会において「具体的な取組」及び「推進体制」について協議
・8月20日	定例校長会議において斜里町学力向上推進計画の概要版を説明し協議
・8月21日	第4回斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会において「具体的な取組」について協議
・8月28日	定例教育委員会議において本年度の全国学力・学習状況調査結果の概要を報告するとともに斜里町学力向上推進計画案を協議し、計画内容について補強すべき事項を協議
・9月5日	第5回斜里町学力向上に向けた学力目標検討委員会において「学力向上推進計画案」の再検討について協議
・9月18日	9月定例町議会町政報告において本年度の全国学力・学習状況調査結果の概要を報告一般質問において斜里町学力向上推進計画を策定している旨を説明
・9月24日	町政策会議（町理事者、部長職）において斜里町学力向上推進計画案を説明
・9月25日	定例教育委員会議において斜里町学力向上推進計画案を説明し内容を確認
・9月26日～10月3日	教育長から各学校長（教頭）に斜里町学力向上推進計画を説明
・10月8日	定例校長会議において斜里町学力向上推進計画を確認 ・校長会及び教頭会による学力向上宣言の実施 ・斜里町PTA連合会役員会において斜里町の学力状況及び斜里町学力向上推進計画について説明し、PTAの協力を要請